

会議録

日時	令和6年4月24日(水)14:30~16:45
場所	総合文化センター 視聴覚室
件名	令和6年度 第1回社会教育委員会定例会
出席者	社会教育委員:小栗正敏、加藤一哉、板橋晋司、松浦大哲、安藤裕子、有賀秀雄、伊藤孝一、浅沼克郎、 工藤剛士 欠席:平尾巖、岩島留美子 市関係者:伊藤慶和(教育長)、加藤百合子(生涯学習課長) 事務局:加納素介(中央公民館長)、川畑篤仁(生涯学習課)
議題	<p>1 委嘱状の交付(瑞浪市教育委員会より)</p> <p>2 挨拶(瑞浪市教育長) 今年度の組織再編により事務局は教育委員会から市長部局へ移ってはいるが、引き続き教育委員会も協力して一緒になってやっていきたい。 子供達には、多様な人との関わりを持てる力を身につけていただきたいと考えている。大人も子供も豊かな心を持ちつつ、教育を進めていかなければいけない。いじめや不登校については、未然防止はもちろんのこと、早期発見と早期対応が重要になる。教育委員会として重点的に取り組んでいきたい。 多様性に関して、岐阜県や東濃圏域ではふるさと教育を重点的に取り組んできている。ふるさとの良さや課題に触れながら、豊かな人間性と豊かな心を蓄えていただき、この地から旅立ったとしてもまた戻ってきてくれることを信じて教育を行っている。昨年度の提言書には、子供達の笑顔を見た時にやりがいを感じる、というアンケートの回答があった。様々な世代の交流は、ふるさと教育やコミュニティスクールにも通じることだと思う。 また各地域で作成していただいた地域計画をつぶさに見ると、どの地域にも子供を大事にしながら地域をさらに発展させていきたい、という強い願いが見て取れる。地域と行政と教育をつなげる要となるのが社会教育委員会であるので、時間の取れるときには委員会に出席して皆さんのご意見を伺いたい。</p> <p>3 自己紹介</p> <p>4 社会教育委員会代表及び副代表の選出(互選) 互選により、代表に加藤一哉委員、副代表に伊藤孝一委員と決定した。</p> <p>5 代表挨拶 社会教育委員会は必置ではなく、設置していない市町村もある中で瑞浪市は社会教育委員会を設置し議論を重ね提言をまとめてきている。教育行政と地域とのつなぎ役としての柱となると考えている。一年間議論を進めていながら、社会教育委員の存在意義を高めたり、地域との架け橋になったりして、まちづくりや地域づくり、人づくりが進む手助けができたらと思う。</p> <p>6 社会教育委員の役割(事務局)</p>

7 県・東濃・市の方針と重点(事務局)

8 充職役割分担 下記のとおり決定。

- | | |
|-------------------|----------|
| ・社会教育振興協議会県評議員 | 加藤一哉 委員 |
| ・青少年育成市民会議専門部会部会員 | 小栗正敏 委員 |
| ・美術展運営委員 | 松浦大哲 委員 |
| ・図書館協議会委員 | 岩島留美子 委員 |
| ・点検評価委員 | 浅沼克郎 委員 |
| ・人権施策ネットワーク委員 | 安藤裕子 委員 |

9 令和6年度の研究テーマ(案)について

「ふるさと学習を通じた世代間の交流の促進について」(案)

意見 地域を活性化しよう、地域づくりを確固たるものにしよう、これまで社会教育委員会で調査研究を行ってきた。ふるさと学習は教育課程の1つの手法であるので、範囲を狭めてしまうことになるかもしれない。テーマの表現だけ再検討していただきたい。テーマを大きくしておいて、調査の視点をピックアップする手法がよいのでは。

意見 テーマ案の中で「世代間の交流」というのがメインになってくるかと思う。

意見 ふるさと学習という言葉を除いて、子供と地域との世代間交流の促進について、としてはどうか。子供達に色々教えられる人材の発掘も課題になっている。

意見 ふるさと学習に的を絞ると、学校教育の範疇になってしまうので、ふるさと学習は一つの視点として位置付けて、2年間の調査研究を進めるといいのでは。地域づくりといった社会教育の範囲内で考えていければ。昨年度の提言書を活かした調査研究を進めたいと考える。

意見 ふるさと学習を含めた地域と子供達の活動内容を収集したうえで、社会教育委員会として「このような視点があるといいのでは」とか「このような手法がある」といった意見を出すことができると思う。

意見 例えば、ふるさとを愛する人づくり、という大きなテーマにして、ふるさと学習・世代間交流・地域の人材育成・コミュニティスクール等の視点から進めていってはどうか。

〈協議結果〉

本定例会での各委員の意見をもとに整理し次回の定例会で方針を検討する。

10 令和6年度の活動計画(案)

資料(案)のとおりとする。県の研修等で日時が決まっていないところについては定例会で事務局から連絡する。8月の東濃地区社会教育連絡協議会の研修会については、瑞浪市が実践発表の担当であるが、昨年度の提言書を手がかりに社会教育委員会の取り組みを発表できるよう定例会及び臨時会で検討していく。

11 その他(研修に係る情報提供)

- 地域学校協働活動推進員等育成研修(6/25(火)、8/27(火)、10/1(火)、11/26(火))
地域学校協働活動推進員等フォローアップ研修(6/18(火)、1/21(火))

12 閉会の言葉(副代表)